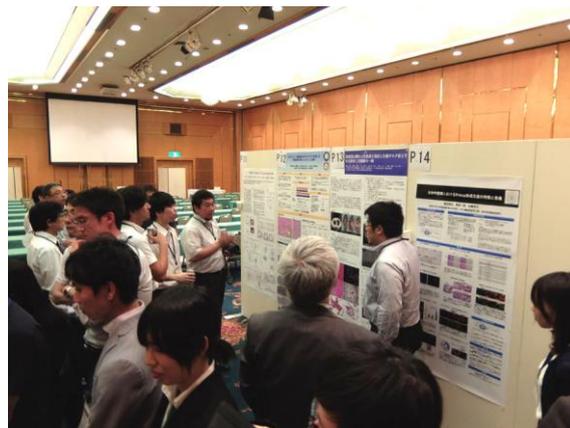


第 14 回日本病理学会カンファレンス 2017 犬山開催報告

第 14 回日本病理学会カンファレンス 2017 を 7 月 28 日 (金)、29 日 (土) に、今年は装いも新たに愛知県犬山市名鉄犬山ホテルにおいて、「酸化ストレス・レドックス研究の曼陀羅的展開」をテーマに掲げて開催いたしました。幸い天候にも恵まれ、木曾川のほとり犬山城下の自然の豊かな環境のもとに、病理学会外からの招聘講師 5 名、病理学会会員講師 5 名ならびに一般参加者 85 名の合計 94 名の御参加をいただきました。また、ポスター発表は 25 題をいただき、深夜まで活発な議論が行われました。開催地は交通の便もよく、施設としても好評でした。



1. 開催の目的と概要

本カンファレンスは日本病理学会会員、特に若手会員が、臨床～生命科学にいたる広範囲の専門家と、十分な討論と交流の場を提供するために毎年開催されているものです。今回で 14 回目となりました。開催テーマは診断病理に偏ることなく、広く病理学会会員が従事している学術研究に関する基礎から臨床までを縦断するようなもので、その中でも近年大きな進歩がみられる研究領域を毎年研究推進委員会で選定しています。

今回のテーマである「酸化ストレス・レドックス」は 70 年代に研究の端緒がありますが、90 年代にはレドックス・シグナルとして盛り上がりを見せ始め、その後、実に様々な分野に波及していった研究分野です。私たちは酸素なしに 5 分と生きることができませんが、私たちのからだの中で酸素は電子の運搬体として利用されています。そして、究極的には酸化還元 (レドックス) 反応、特に鉄・硫黄・酸素原子を介する反応が重要であることがわかってきました。酸化ストレス・レドックスの問題は、すべての病理学的事象に関係しているといっても過言ではありません。こうした「孫悟空とお釈迦様の手のひら」を意識して仏教用語の曼陀羅を使わせていただいた次第です。

本カンファレンスではこの方面の第一線で活躍中の中堅からベテランの先生方に講演をお願いしました。お気づきのように、この名鉄犬山ホテルは昭和 40 年代に慢性肝炎の組織分類が決められた、まさにその場所であり、病理診断医にも縁深い名勝です。その意味から話題としても慢性肝炎～肝臓も含めました。本会で得られる学術成果が、病理学のみならず、基礎医学からベッドサイドへと横断的に医療の進化・深化に貢献すると確信しております。この会に参加することにより、若

手病理医や研究者のリサーチマインドが鼓舞され、日本から世界へすばらしい研究成果が多数発信されることを祈念しております。

各講演後には若手研究者が数多く質問に立ち、またショート・プレゼンテーションならびに夕食後のポスターセッションでは極めて活発な議論が交わされました。その様子は写真もご覧ください。ポスター発表は日本病理学会研究推進委員会の先生方に採点いただき、最優秀ポスター賞 1 名、優秀ポスター賞 2 名を決定し、カンファレンス閉会式において表彰しました。

今回のレクチャー講師と演題は以下の通りです (敬称略、発表順)

- 熊谷 嘉人 (筑波大学医学医療系 環境生物学)
親電子化合物とレドックス
- 柴田 亮行 (東京女子医科大学医学部 病理学)
酸化ストレスと神経変性疾患
- 日野 啓輔 (川崎医科大学 肝胆膵内科学)
C 型肝炎ウイルス排除後の肝疾患の新たな課題
- 柴田 龍弘 (東京大学医科学研究所 ゲノム医科学)
肝癌・肺癌の NGS 解析からの展望
- 河合 慶親 (徳島大学大学院医歯薬研究部 食品機能学)
マクロファージを標的としたポリフェノール代謝物の構造変換と機能性発現メカニズム
- 竹腰 進 (東海大学医学部基礎医学系生体防御学)
酸化ストレスとプロテインキナーゼ
- 平山 祐 (岐阜薬科大学 薬化学)
触媒性 2 価鉄プローブの開発と応用
- 山田 壮亮 (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 病理学)
抗酸化酵素ペルオキシレドキシシン (PRDX) 4 と metabolic syndrome
- 本橋 ほづみ (東北大学加齢医学研究所 遺伝子発現制御)
Keap1-Nrf2 システムと発がん
- 豊國 伸哉 (名古屋大学大学院医学系研究科 生体反応病理学)
低温プラズマ技術の医療・生物応用

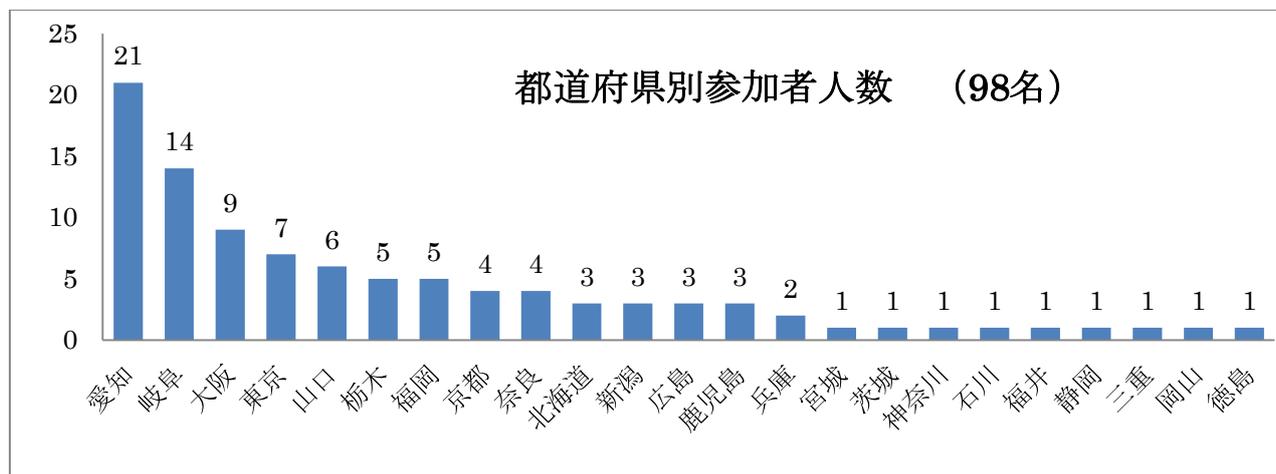
一般演題ポスター発表は、25 題で、以下の 3 名にポスター賞が授与されました (敬称略)

- 最優秀ポスター賞 大島健司 大阪大学大学院医学系研究科 病態病理学講座
「アルギニン合成律速酵素 ASS1 による mTOR シグナルを介した腫瘍浸潤制御機構」
- 優秀ポスター賞 石川 洸 広島大学 分子病理学研究室
「胃癌における Annexin A10 発現の重要性に関する検討」
- 優秀ポスター賞 栗田菜花 新潟大学大学院医歯学総合研究科 分子細胞病理学分野
「生体内腫瘍における R-loop 形成亢進の特徴と意義」

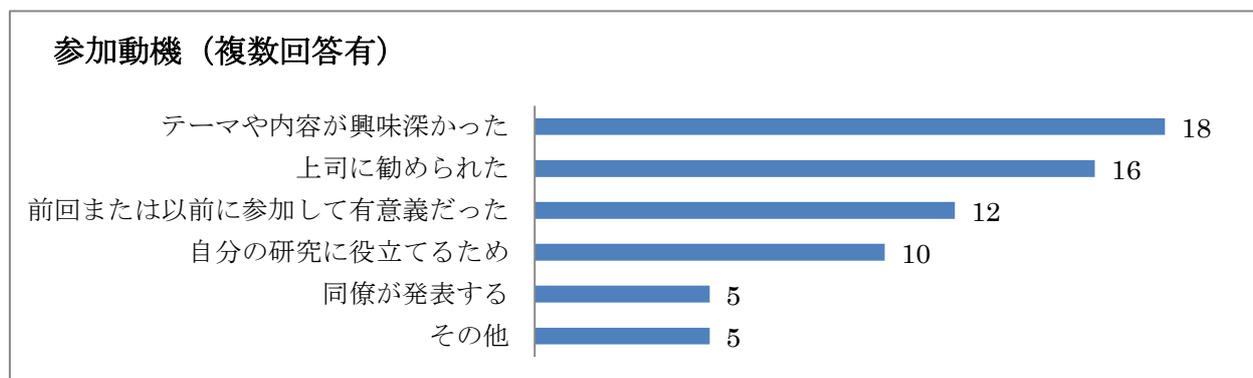
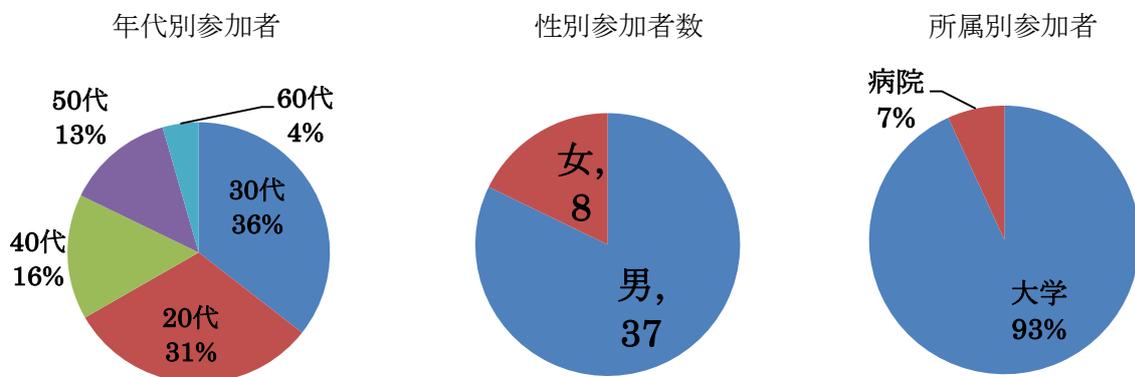
2. 参加者 (98名) の内訳について

ポスター演題数 25題
 参加人数 94名(演者10名含む) + 運営スタッフ4名

都道府県別参加人数



3. アンケート集計結果 (アンケート回収 45名)



【意見】

- ・ポスター賞は、学部生にとらせるべきではないと思う。学部生は病理に進むかも分かっていない状態であり、受賞が学会に還元されるか不明。また、判定が一般病理医より甘くなる可能性も高い（実際今回はそう思われた）学部生ポスター賞を別枠で 1 名（副賞なし、受賞のみ）で作るべき。
- ・1 年前の新人賞でも思われたが（同じ意見を周囲からも聞いた）。病理学会の賞は、女性を優先しがちである。
- ・お酒が多く、去年よりも飲み会が盛り上がった。（AM2：30 まで）
- ・質疑応答がとても活発で、素晴らしいと思いました。
- ・全国の若手病理研究者や医学部生の交流の場として、活性化に利用する大切な機会となるよう願います。
- ・若手の oral presentation を望む。
- ・とても勉強になりました。
- ・快適な会場、快適なロケーションでじっくり討議でき、有意義に過ごしました。テーマもよかったです。若手の発表や質問を歓迎するカンファレンスの空気感はこれからも続けていって下さい。
- ・初日に犬山遊園駅からホテルまでバスがあって良かった。事前にもう少しアナウンスしてほしい。
- ・会場に無線 LAN が欲しい。
- ・難しい内容もありましたが、研究へのモチベーションがとても刺激されたいい会でした。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。とても為になる会でした。
- ・夕食の席をくじで決めるというのはあまり交流のない方と話すきっかけとなるので面白かった
- ・相部屋の場合、事前に通告してもらえるとありがたいと思った。
- ・病理学会総会ではなかなか聞くことができない内容で勉強になりました。運営の諸先生方ありがとうございました。
- ・とても充実していました。ありがとうございました。
- ・ありがとうございました。素晴らしい会です。
- ・非常に和やかな会で楽しめました。また、来年も参加したいです。
- ・食事が美味で、温泉もよかったです。

【取り上げてほしいテーマ】

- ・ Stem cell
- ・ iP_s 研究
- ・ 腫瘍微小環境
- ・ 骨髄由来幹細胞とヒトの疾患
- ・ 免疫病理学
- ・ 神経変性疾患
- ・ 敢えて、“Negative data” を discussion する
- ・ Keap1-Nrf2 システムと発がん
- ・ 肝がん・肺がんの NGS 解析からの展望
- ・ ミトコンドリア
- ・ 扁平上皮がんを掘り下げる (肺・皮膚・食道・口腔・咽頭を横断的に)
- ・ 産業医学と病理 (アスベスト、粉じん曝露など)
- ・ 線維化疾患のメカニズム
- ・ がん転移
- ・ エピジェネティクスと発がん
- ・ イメージング (in vivo, in vitro)
- ・ Oncology
- ・ エピジェネティクス
- ・ ゲノム編集
- ・ 疾患発生と霊性の関連
- ・ 生命の起源と霊性の関連



4. 総括と今後のカンファレンスへの課題

<参加者>

アンケート結果からは 20～30 代の参加者が 60%を超えており、本カンファレンスの趣旨に沿った参加者が得られたと考えます。今回、数名薬学部や工学部の学生の参加も確認できましたが、違和感なく活発な交流が行われていました。お互いに刺激になり、よかったと思います。たいへん活発な質問が行われ、またポスターセッションでも熱い議論が交わされていました。

<レクチャー>

酸化ストレス・レドックス研究の先端を走っている中堅～ベテランの先生を中心にお願ひしました。内容は、レドックス・シグナル、神経変性疾患、ウイルス性肝炎、次世代シーケンズ解析、食品、キナーゼ、蛍光プローブ、動脈硬化症、がんによる Keap1-NRF2 システムのハイジャック、低温プラズマの医療応用など極めて多岐に渡り、好評でした。

<一般ポスター演題>

25 題でしたが、内容的には症例報告から最先端の研究にいたる多彩で新奇な内容が提示されました。今年は 1 分間スライド 2 枚によるショート・プレゼンテーションを行い、ポスターセッションへの導入としました。こちらも好評だったと思います。

<会場>

初めて名鉄犬山ホテルで開催しました。ホテル側にはきめ細やかな対応をしていただき、カンファレンスの進行はスムーズだったと思います。今回和食であった食事は好評で、特に鮎の塩焼には高い評価をいただきました。また、夜遅くまでのフリーディスカッションに関して、他の客とは離れた部屋を準備いただくなど、いろいろな御配慮をいただきました。



5. 謝辞

今回のカンファレンス開催にあたり、御支援をいただきました日本病理学会ならびに企業の皆様に感謝申し上げます。準備に際しましては、日本病理学会研究推進委員会ならびに日本病理学会事務局に種々の御助言・御指導を賜りました。また、講師の先生方には多忙なスケジュールの中を御参加いただき、貴重な議論や若手研究者にアドバイスをいただき、心より御礼申し上げます。最後になりますが、本カンファレンスの準備・運営を手伝ってくださった、名古屋大学大学院医学系研究科生体反応病理学・分子病理診断学のスタッフ・所属学生に深謝いたします。

